

明日の淡海

VOL.
39
2022.10

- 自然と人との共生をめざして -

公益財団法人 淡海環境保全財団

表紙写真：堀切港より沖島を望む（近江八幡市）

令和4年度「ラムサールびわっこ大使」の活動が始まっています！

琵琶湖の貴重な自然や文化を未来に引き継ぐためのリーダーを育て、学んだことや感じたことを広く発信することを目的に取り組む、「ラムサールびわっこ大使」。今年で15年目を迎えました。大使たちは元気いっぱい、向上心いっぱい活動に励んでいます。

今年度のびわっこ大使は、県内各地から選ばれた小学6年生7人と5年生3人の計10人です。12月に予定されている「三方五湖子どもラムサールクラブ」との交流に向けて、ラムサール条約登録湿地としての琵琶湖の価値を学ぶため、琵琶湖と森・川・水田が育む自然と文化の現場を訪れます。



びわっこ大使 任命状授与！

7月2日、滋賀県庁で滋賀短期大学の中平教授から、子どもたち一人ひとりにラムサールびわっこ大使の「任命状」が授与されました。引き続き行われた第1回学習会では、琵琶湖やラムサール条約について学びました。特に、この条約が大事にしているのが、①保全・再生、②ワイズユース（賢明な利用）、③交流学習の三本柱であり、湿地に関わる人たちの交流、学習、普及啓発が大きな役割を果たすことを教わりました。

さあ、次からいよいよフィールドでの体験や学びの連続です。



中平教授から任命状授与

「ふなずし」清け体験

日本唯一、世界でも稀な湖に浮かぶ有人島・沖島にて～

7月22日の第2回学習会では、沖島漁業協同組合の皆さまにご協力いただき、滋賀の伝統的食文化である「ふなずし」を漬ける体験をしました。

渡船で近江八幡市の堀切港を出港して、10分ほどで沖島に到着します。まず県水産課の大植さんより、びわ湖と魚をテーマに、漁法のバリエーションや魚の現状、びわ湖の魚介類を食べることの大切さを伺いました。続いて中平先生から、保存性・味・栄養価が向上する「ふなずしのすごさ」についてお話を伺いました。

その後、春先に琵琶湖で獲れた塩漬けのニゴロブナ5キロを、みんなで手分けして慎重に洗い、丁寧にたわしで磨きます。「えらの中にも塩が入っているので丁寧に洗い流して」「青光りするまでしっかり磨いて」など、お声がけを頂きながら、一人ひとりが真剣な眼差しで作業を進めました。塩や汚れが残っていないか、きれいに磨き上げられているかを確認していただいて、OKが出たらペーパータオルでフナの水分をふき取り、いったん干しておきます。たるに入れる、「本漬け」の作業は午後から。その前に、組合長さんのお話を伺います。



ニゴロブナのたわし磨き作業



磨いたフナを吊り下げて干す

Index

- 1-2 表紙特集 令和4年度「ラムサールびわっこ大使」の活動が始まっています！
- 2 ベトナム ハロン湾から～長期派遣専門家からの便り～
- 3 その人に聞く ここ滋賀統括マネージャー アインズ株式会社 北川 真也さん

- 4 日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～ 新潟県佐潟 滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 駒井 千春さん
- 5 開催報告 夏休み自由研究講座／下水道技術講習会
- 6 おしらせ 募集・イベント情報

～沖島漁協でのお話と手作りのお弁当を味わう～

沖島漁協の奥村組合長より、漁師の視点から見た琵琶湖の自然と、湖とともにある暮らしの変化について、お話を頂きました。「魚の産卵場所であった多くの内湖が失われたが、最近、モロコが島の石ころに産卵に来るようになった。魚たちは今ある自然の中で子孫を増やす努力をしている。そんな自然の浄化作用による琵琶湖の復活の兆しに、今喜びを感じている」とおっしゃったのが、とても心に残りました。



そして昼食の時間。沖島のお母さんたちが用意してくれた、この日のメニューはピワマスの煮つけ、えび豆コロッケ、ブラックバスのフライ、ウロリやアユの佃煮など。野菜なども沖島でとれた物ばかりの心のこもった特製弁当に、びわっこ大使たちから「とても美味しいです!」と声が上がりました。昼食後は漁港で魚影を追ったり、波打ち際で涼んだり、島の夏のひとときを楽しみました。



～いよいよ、ふなずしの本漬け～

午後からは、いよいよ本漬け。まずフナにご飯を詰めていきます。「おいしい卵を崩さないよう慎重に、エラからご飯がはみ出るくらい詰めこんでね」というアドバイスに、難しい…とつぶやきが聞こえます。それに続く、たるへの詰め方、並べ方にも、多くの技と先人の知恵があることが印象に残った様子です。ふりかえりシートにも、たるの中をイラストに描いている大使がたくさんいました。そして、ついに完成!たるに、「令和4年ラムサールびわっこ大使」としっかり書き入れました。



このあとふなずしは、発酵が進むにつれ酸味が増して骨まで柔らかくなり、お正月頃に食べ頃となります。手間ひまかけて作られるふなずしは、ハレの日のご馳走です。滋賀の環境保全とあわせて、**作り、食べることでこの食文化を守りつなぐ**ことが重要だと感じました。



お世話になった沖島の皆さま、講師の先生方、本当にありがとうございました!

8月28日、滋賀県庁で開催された現役びわっこ大使とびわっこ大使OB・OGとの交流会。15名の先輩大使たちが参加して、大いに盛り上がりました。

平成20年のスタートから、びわっこ大使をずっと見守って下さっている滋賀大学名誉教授川嶋先生による活動紹介からスタート。続く中村大輔先生のアイスブレイクでグループ内での会話が活発になったところで、『MLGs (マザーレイクゴールズ)』について、県琵琶湖保全再生課の加藤さんのお話の後、ワークショップを行いました。

テーマは『琵琶湖の明日を考えよう』。MLGsの13の項目から、まず「自分が大切にしたいゴール(目標)」



を3つ選び、それを選んだ理由とあわせて発表します。一人ひとりの意見をグループの意見としてまとめ、発表する先輩たち。その姿を間近で見て、大使たちも良い刺激を受けたようでした。人の意見を聞き、話し合っ自分の考えを広げ、深めるというこの日の「めあて」とおり、交流を通じて、『琵琶湖のためにわたしがしていきたいこと』をしっかりと掘り下げて考えてくれました。

来年はOB・OGとして、ぜひ参加してくださいね!



ベトナム ハロン湾から

～長期派遣専門家からの便り～



カトウ族の皆さんと

クアンニン省から空路1時間半、ダナンに到着し車で2時間、ラオスと国境を接するクアンナム省の山岳地帯ナムザン郡へ省外出張しました。少数民族カトウ族による住民主体のコミュニティツーリズムの調査です。伝統的な織物、手工芸品、郷土料理などを観光客に紹介するだけでなく、観光振興を通じて失われつつある文化を次世代に継承する取り組みは、「ナムザンモデル」として他省にも広がりを見せています。5つほ

JICA(国際協力機構)の専門家「グリーン成長政策アドバイザー」の活動を紹介します。

どの家庭を回り、日常生活を体験し、一緒に食事をとるなど地元の人々と交流できる観光です。自家用車もなく、コンビニもない山村で暮らす人々の優しさや笑顔に接し、本当の豊かさとは何なのかを考えさせられる旅でした。

調査を終えダナンに戻ると、大きな観覧車が夜空に明るく浮かび上がっていました。昔びわ湖タワーにあった「イーゴス」という観覧車です。もうすっかり忘れていたのですが、2013年にベトナムに移設され今も現役として活躍しています。滋賀とベトナムのつながりを改めて感じました。



カトウ族の伝統織物「カトウ織」



同郷の元「イーゴス」と再会!

自然と人との共生をめざして

その人に 聞く

「ここ滋賀」統括マネージャー
アインズ株式会社

北川 真也 さん

東海道など五街道の起点である日本橋は、江戸時代から諸国の人や物が行き交う場所。そのにぎわいの一翼を担っていたのは、「三方よし」の精神で全国の産物を商い、流通させていた近江商人でした。

中央通りと永代通りの交差点にある滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」は、滋賀の魅力発信をその使命に、近江商人ゆかりの地、ここ日本橋に開設されました。

それから約5年の時が流れ、今年4月末にリニューアルオープンし、大いなる進化を遂げた「ここ滋賀」の統括マネージャー、北川さんを訪ねました。



— 今回のリニューアルで、「ここ滋賀」の運営会社が御社（アインズ㈱）に変わりました。抱負、意気込みをお聞かせください。

北川さん 私は大津市の木戸（旧志賀町）出身。東京に来て17年になりますが、ずっと滋賀のために何か貢献したいと思ってきました。

このたび、「ここ滋賀」の第2期の運営を任せ、「オール滋賀体制」で地元の皆さんと密接に連携しながら、滋賀の魅力を発信し、体感してもらうことで、ぜひ滋賀への誘導につなげていきたいと考えています。



北川 真也さん

— 滋賀の魅力。その中身と発信方法は？

北川さん まずは滋賀の魅力ある商品のアピールを重視しています。バックグラウンドやストーリーに共感していただくため、その魅力を伝える各分野の「語り部」に滋賀から上京してもらい、来店者と直接対話する機会を積極的に設けていきたいです。滋賀を体感できるイベントやワークショップを全館を通じて多彩な内容で定期的開催していきます。

— 1階に新たに設置された、ピワイチを想起させるスポーツサイクルと白鬚神社の鳥居の壁面展示が目を引きますね。



北川さん はい。これまで来店者の満足度は高く、滋賀へ行きたいと回答されるものの、実際の来訪にはなかなか至りませんでした。そこで今回、観光コンシェルジュの常駐や、店頭での旅行商品販売などの体制を整えたところ、滋賀の魅力を感じた方がその場で旅行契約をされるという実績にもつながっています。

— アンテナショップで旅行を申し込めるなんて、すごいですね。2階のレストランも一新されましたね。

北川さん 近江牛の名店に新たに入っただき、フレンチ出身の料理長の経験と、県産食材、だしや発酵の工夫といった滋賀の技を融合し、お客様との対話の中から料理を提供するスタイルにこだわっています。近江牛をお求めになるような、食に対するアンテナの高い首都圏の方に滋賀の食の魅力を伝え、引き込んでいきたいと思っています。

— 楽しみです。店内はあたたかみとやわらかさを感じるベージュ基調に変わりました。ここで大きな役割を担っているのが、ヨシですね。

北川さん はい、琵琶湖の原風景であるヨシを想起できるよう、ヨシを練り込んだ塗壁や、ヨシを漉き込んだ特殊紙を、テーブルトップほか至るところに使っています。近江牛や湖魚などの滋賀の名産品を特別な空間で味わっていただけると幸いです。

— リニューアルで店の雰囲気も大きく変わりましたが、ヨシ財団とも呼ばれる当財団としては、ヨシをイメージした天井装飾がそのまま嬉しいです。

北川さん そうなんです。やはり滋賀といえば琵琶湖。琵琶湖は日本最大の湖であるだけでなく、古代湖として400万年からの歴史があり、世界的にも珍しいということもあわせて伝えたいです。興味関心を向けてもらうきっかけの一つとして、財団さんのヨシビーズキットを使った工作イベントを企画、開催しました。



— ありがとうございます。ヨシビーズキットや当財団のヨシ製品も、売り場に置いていただきたいです。

北川さん 今回1階に新しく設けた「ココトライ」コーナーを活用ください。レギュラー商品となるかどうか1か月置いて売れ行きを見る、トライアル販売のコーナーです。



— 近いうちにチャレンジさせてください！



ここ滋賀のコンセプト、「ここから、ひろがる滋賀のストーリー。」のとおり、滋賀の魅力が多くの人に伝わり、喜びやにぎわいにつながることを期待しています。

日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

第13回

さかた
佐潟

(新潟県新潟市西区)

佐潟は、新潟県中央部の新潟市西区、赤塚地区に位置し、上流側の小さな上潟と下流側の大きな下潟の、大小二つの潟から成り立つ淡水湖です。砂丘のくぼ地にできた「潟湖」で、流れ込む河川はなく、雨水とわき水によって維持されています。ガンカモ類の有数の集団渡来地で、1996(平成8)年にラムサール条約登録湿地として指定されました。

佐潟水鳥・湿地センターから佐潟を見ると、潟が細長いお盆のように奥に広がり、突き当りに角田山が見えて、素晴らしい眺望です。2mほどの高さのヨシが潟の周囲を取り巻いていました。



佐潟はわき水により冬でも水温が比較的高く凍結しにくいため、周辺の湖沼が凍結すると鳥たちがここに集まってくるようで、近年では2万羽を超える鳥類が観察されることもあります。特に、コハクチョウの越冬数は毎年3,000羽以上と、全国有数の越冬地となっています。



ここでのヨシ刈りは、琵琶湖のようにヨシ保全のために行われるのではなく、水質浄化と生物多様性の確保を目的としており、毎年9月に行われています。



佐潟のヨシ刈り

この地で昔から行われていた、村人総出の泥さらい「潟普請」を、「佐潟と歩む赤塚の会」や赤塚中学などからなる「佐潟クリーンアップ実行委員会」が、「現代版・潟普請」として、「ど」と呼ばれる水路の整備や潟の泥上げ、清掃などの新しい保全活動として実施しています。ヨシ刈りは潟普請の一部として行われ、年約1.4~1.9haもの面積を刈り、2年ほど積んでたい肥化し、周辺の農家が引き取って利用しているとのことです。



潟普請会場

が引き取って利用しているとのことです。

このように、佐潟では人間も含めた多様な生き物が相互に関係しあうことで、その自然環境が成り立っています。

写真提供：佐潟と歩む赤塚の会

滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



駒井 千春さん
草津市在住 大学4年生

今回は、大学生として取り組む「環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業」を牽引しながら、出前講座や啓発イベントなどに積極的に参加して活躍されているこの方です！

今年度より推進員として活動をしています。

大学の授業で気候変動の実態を知り、今すぐに何かしなければと危機感を抱きました。「地球温暖化」は私にとって小学生の頃から聞き慣れた言葉であり、あらためて問題意識を持つきっかけを得るのが難しいと感じています。たしかに、子どもの頃と比べて夏の暑さは厳しくなっており、豪雨による災害も増えています。しかし、自分が被災しない限り、危機が迫っていると感じたり考えたりする余裕がないほど、情報過多で忙しい社会になっています。

洪水や干ばつなど気候変動による被害の映像が、世界中からリアルタイムで私たちの手元に届きます。世界と繋がらずには生活できない国際社会の中に生きる一市民として、身近なところからできることを増やし、気候変動という大きな社会課題の解決に貢献していきたいです。



大学生の温暖化防止事業のオープニングで
交流プログラムを進める駒井さん

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。

「地球温暖化と未来を考える自由研究講座」を開催しました

●夏休み自由研究講座『SDGsを考えたお買い物』

7月24日、平和堂石山店で、買い物における地球温暖化への影響について学びました。お話は、滋賀県地球温暖化防止活動推進員の田中順子さん。

続いて売り場へ移動し、文具の「のり」、「玉ねぎ」、「手洗い石けん」の3つの商品について、価格、産地、包装、原材料などにさまざまな違いがあることを、一つひとつ手に取って確かめ、見比べます。また、エコに関するマークなども探しました。



「たくさん商品があるね。エコな商品はどれかな？」と滋賀県地球温暖化防止活動推進センターのキャリアアドバイザー・来田博美さんの説明を聞く子どもたち
〔週刊ストアジャパン〕8月1日号より

席に戻って各自まとめた後、自分がどうしてこの商品が最もエコだと思ったのかを発表してもらいました。産地が近いと輸送距離が短いこと、詰め替え製品を選ぶことによる効果など、皆さんがSDGsにつながる点を発見してくれたことが伝わりました。

日頃の買い物ではついコストを優先しがちですが、地球温暖化防止やSDGsの観点も取り入れて、購買行動変容につなげていただけたらと思います。

この日の様子は、流通業界専門誌『週刊ストアジャパン』8月1日号に掲載されました。平和堂地域共創課の皆さま、石山店の皆さま、ご協力ありがとうございました。



〔週刊ストアジャパン〕
8月1日号より

●夏休み自由研究講座『びわ湖の魚を調べよう』

7月29日、長浜市のさざなみタウンで、びわ湖やそのまわりの川に棲む魚に、今後地球温暖化がどのように影響するかを学びました。お話は、滋賀県地球温暖化防止活動推進員であり、えきまちテラス長浜1階の「小さなびわ湖水族館」を管理する近江淡水生物研究所の向田直人さん。

特に、びわ湖で全層循環が起こらなくなった年が2年続き、酸欠で多くの魚が死んでしまったというお話は、地球温暖化が遠い国のできごとではなく、びわ湖が影響を受けていることがみなさんに率直に伝わったようでした。

最後に、魚の体の構造を、なんと煮干しを使って見るという解剖体験。一人一人が慎重に指で解体し、心臓など小さな臓器をひとつずつ取り出して解剖標本シートに乗せていき、最後に写真に収めて記録しました。

保護者の方々からは、自分自身がとても楽しんで受講した、解剖に夢中になったなど、嬉しい感想をいただきました。



魚の体の構造を説明

「下水道管渠包括的民間委託の推進」をテーマに 下水道技術講習会を開催しました

8月25日、日本下水道事業団(JS)の森岡理事長を淡海環境プラザにお迎えし、「下水道の諸課題とJS中期経営計画」と題して特別講演をいただきました。続いて、テーマに沿った先進事例と民間企業の事例について、2人の講師に講演をいただきました。



本講習会は市町下水道担当者の皆さんに、下水道についての知識習得・技術向上・情報提供を目的に年2回開催しているもので、今回は各市町の担当者など38名の参加がありました。



特別講演
「下水道の諸課題とJS中期経営計画」
講師：日本下水道事業団 理事長 森岡 泰裕 様

これまで下水道は、公共用水域の水質改善の役割を果たしてきました。これからは、資源循環・省エネ・温暖化対策や浸水対策を進めます。

また、新たな役割として、ディスプレイによる生ごみの受け入れや、高齢化に伴う使用済み紙オムツの急増に下水道が対応して受け入れることなどが求められています。

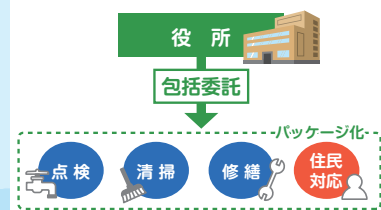
続いて、吹田市下水道部管路保全室の大坪様より、下水道管渠包括的民間委託の先進的な取り組みについて、その効果や課題などのお話を、クリアウォーター OSAKA(株)経営企画部の森田様より、複数の自治体から実際に包括委託を受注している現状について、お話を頂きました。

■管渠包括的民間委託について

下水道施設整備がほとんど完了した現在、施設の管理や老朽化対策の重要性が高まっています。

各市町が管理する膨大な管渠（いわゆる「下水管」）の維持管理方法の一つとして「管渠包括的民間委託」があります。

これは、これまで別々に契約していた点検、清掃、修繕といった業務や、役所が行ってきた住民対応業務などの複数業務をパッケージ化して複数年契約で民間業者に委託するやり方です。民間企業の創意工夫を生かした効率的な業務遂行が期待できます。



包括的民間委託の業務イメージ

淡海ヨシ植えボランティア募集!

要事前申込

びわ湖のヨシ群落は魚や鳥などのすみかであるとともに、びわ湖らしい風景のひとつであり、私たちの心の財産でもあります。「淡海ヨシボランティア」は、多くの方々のご協力を得て、このヨシ原の保全を行うものです。今年11月3日(木・祝)に野洲市須原でヨシ植えを行います。多くの皆さまの参加をお待ちしています。



マシンガンズ 滝沢秀一さんトークショー & COOL CHOICE ポスター表彰式を開催します

要事前申込

お笑いコンビ「マシンガンズ」として活動する傍ら、ゴミ収集会社での体験や気づきを発信する書籍やツイッターが人気の、滝沢秀一さんをお迎えしてトークショーを開催します。ぜひご来場ください。2022年度地球温暖化防止「クールチョイス」のポスター入賞作品表彰式・展示を同時開催します。

日時 2022年12月3日(土) 14:00~15:30

会場 コラボしが21 大会議室 (大津市打出浜2番1号)

定員 70名(申込先着順)

※募集開始次第、当財団ホームページに掲載します。



イベント情報

2022年 10月~12月

イベント名	開催日	時間	場所	内容
滋賀電王CO ₂ ネットゼロ宣言推進イベント [エコフェスタ]	10月8日(土)	10:00 } 15:00	電王町防災センター	エコカーの展示や、ダイハツ工業滋賀(電王)工場での環境への取り組みの展示説明、電王町エコライフ推進協議会の活動紹介、フードドライブの受付など。当財団もエコキューブ工作のブースを出展します。
バラ園一般公開&施設見学会	10月19日(水) } 30日(日)	9:00 } 16:30	湖西浄化センター (大津市苗鹿三丁目1-1)	90種700株のバラをご覧ください。期間中の土日、普段見る機会のない下水処理場で水がきれいになる過程を見学できます。(午前の部10:30~11:15、午後の部14:00~14:45)
淡海ヨシボランティア ※要事前申込	11月3日 (木・祝)	13:00 } 15:00	野洲市須原地先	びわ湖のヨシ原を広げるため、当財団で育成したヨシ苗を植えていただく、当財団主催のイベントです。
第29回「よりよい水環境づくり」 ポスターコンクール表彰式	11月3日 (木・祝)	11:30 } 12:00	淡海環境プラザ	びわ湖をはじめとする公共用水域の水質保全など、水についての必要性を認識してもらうことを目的として、水環境への想いを描いたポスターコンクールの表彰式が開催されます。
しが環境キャラバン木育ワンダーパーク	11月12日(土) } 13日(日)	10:00 ~16:00 (13日は15時まで)	淡海環境プラザ	県内の木育関連事業者の展示、木の遊具など、木の素晴らしさに触れてください。【主催：滋賀県、滋賀県木材協会】 ※同時開催 なるほど下水道！湖南中部浄化センター見学ツアー、うちエコ診断
グリーン経済フォーラム2022 「食」から「グリーン購入」を考える フードサプライチェーンで考える サステナビリティと経済循環 ※要事前申込	11月15日(火)	13:30 } 16:00	フェリエ南草津5階 市民交流プラザ 大会議室 ※会場、オンライン (Zoom)各40名	我々の命を繋ぐ「食」について、どのような調達や消費行動を行うことが真の意味での「グリーン」となるのか。環境負荷の低減に向けての「グリーン購入」を今一度考えていきましょう。【主催：(一社)滋賀グリーン活動ネットワーク】
TOYOTA SOCIAL FES!!2022 琵琶湖環境学習プロジェクト 水環境や生態系を守る ヨシの役割を学び、保全しよう! ※要事前申込	11月26日(土)	9:30 } 12:00	淡海環境プラザ 40名	ヨシ帯が多くの生き物の命を育てていることや琵琶湖の水の浄化に関係が深いことなどを学びます。後半は、ヨシを使ったクリスマススワッグ作りを体験します。【主催：京都新聞、共催：(公財)淡海環境保全財団】
COOL CHOICEポスター表彰式& マシンガンズ 滝沢秀一さんトークショー ※要事前申込	12月3日(土)	14:00 } 15:30	コラボしが21 大会議室	夏休みに募集したポスターの入賞作品を表彰、展示します。あわせて、お笑いコンビ「マシンガンズ」として活動する傍ら、ゴミ収集会社での体験や気づきを発信する書籍やツイッターが人気の、滝沢さんのトークショーを開催します。

公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団

VOL.39 2022年10月発行
(年4回発行)

〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町帰帆2108番地
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp

【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp

【淡海環境プラザ】
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



編集後記

びわっこ大使の活動にも、コロナ禍でいろんな制約が課せられています。でも大使たちにとっては、その年の自分たちの活動が全て。地域の方の多大なご協力を頂きながら、貴重な「体験」の機会を提供するよう努めています。



- 用紙:責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷